

家庭

全学年 課題コースB <製作・研究>

家庭科の学習は私たちの日常生活と大変密着しています。毎日の生活が学習の場となります。日頃、疑問に感じていることやもっと深く知りたい（やってみたい）と思っていることにこの長期休暇を利用して取り組み、体験してみましょう。

つぎに研究テーマの例を示しておきますので参考にしてください。

1. 料理を楽しもう。
2. 自分自身の食事記録（最低1週間）をとって食生活を振り返ろう。
3. 糸や布を使って何かを作ってみよう。
4. 生活科学センターなどの見学をし視野を広げよう。
5. 環境問題について調べよう。
6. その他、家庭生活に関して資料やインターネットで調べよう。

いずれの分野も『趣味の発表』の場ではありません。

あくまで『研究』の成果の発表ですので次の点に注意してください。

①③の分野：作りっぱなしではなく、必ず感想（工夫したところ・苦労したところ）を書いたレポートを添えること。

②③④⑤⑥：資料を写すだけでなく、理解し、自分のことばでまとめよう。

つぎはご参考までに・・・(メモ)

■ 研究対象（一例）

□ 食物の分野

- ・ 調理：レシピを基につくる，オリジナルで挑戦してみる
（自家栽培した食材で料理するのも楽しみですね。）
- ・ 調理実験：(例) 卵の加熱時間による凝固比較，寒天・ゼラチンの濃度のちがいによる凝固・口当たりの比較，味噌汁のおいしい味噌の量（塩分濃度）など
- ・ 食事記録：一週間の食事を記録し，食生活・栄養バランスについて検討する
- ・ 食文化：旅行先での食事記録・観察
- ・ 食生活調査，普段食べている食品を追跡する：
- ・ コンクール（料理コンテスト）に応募する：特産品やメーカー指定の食材を生かした料理レシピを考案し，応募する。賞や副賞も楽しみのひとつ。

□ 被服の分野

- ・ 裁縫, 手芸: 市販のキットやオリジナルで作品製作する
- ・ 実験: (例) 染色実験など
- ・ 普段身につけている衣類を追跡する:
- ・ ファッション, 流行の調査: 雑誌・聞き取りなどをもとに移り変りを調べる

■ レポートの書き方

レポートの書き方には「これでなければならない」といった形式はありません。ですが良いレポートというのは、読者がそれを読んだとき（見たとき）に、なにか印象に残るものがあります。論旨がはっきりしているとか、視覚にうったえるものがある（写真など）とか、いろいろあります。

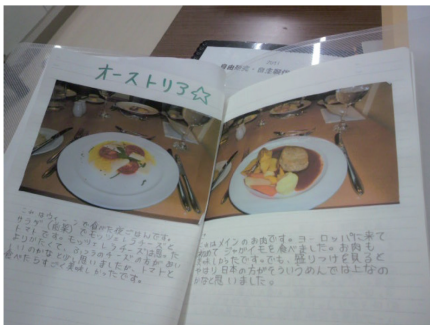
《形式》（一例）

1. 序論（はじめに）: この課題をとりあげる理由は？ なぜ興味を持ったか、背景は何か、経緯などの説明。研究前の自分の意見・立場なども書く。
2. 本論: その名の通り調査・研究・取り組みの内容を書く。
3. 結論: 何が分かったのか、何を提案するのか？ 研究を通じて自分自身が考えたことや感じたこと（工夫した点、苦労した点）を十分に検討したうえで書く。
4. 参考文献・資料など: 必ず明記すること。

自分が調べたことや自分が考えていることを相手にちゃんと伝わるように表現してみよう。（誤字・脱字がないように気をつけましょう。）

※ 製作（作品）にもレポート資料は必要です。

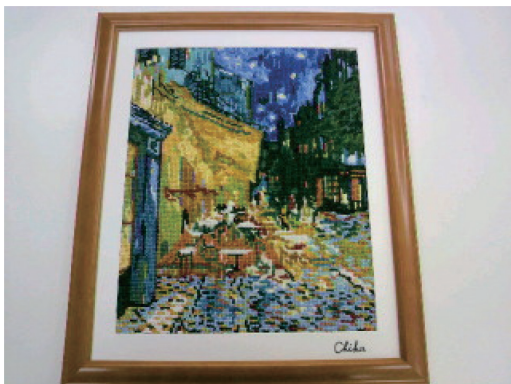
■ 作品・研究（一例）



「中央ヨーロッパの食事」（田中さんの研究）



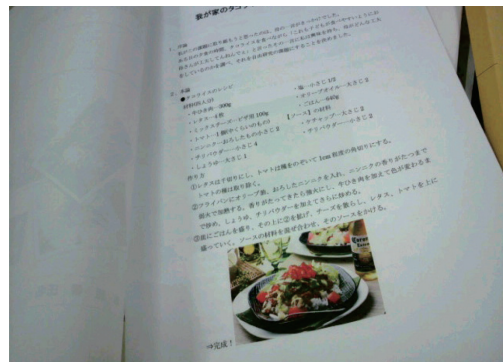
「世界の料理」（鍵さんの研究）



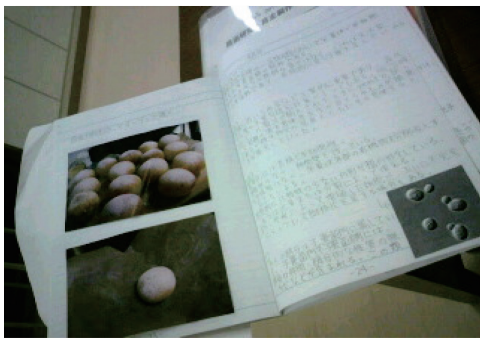
「夜のカフェテラス」クロスステッチ（山上さんの作品）



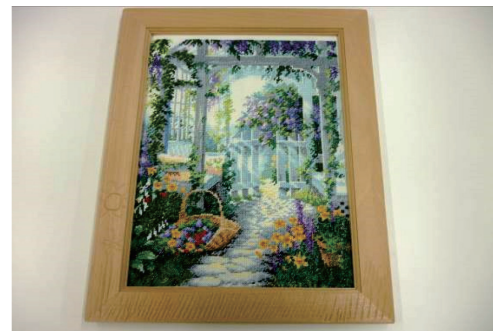
フェルトでケーキ（池田さんの作品）



「我が家のタコライスのアレンジ」
(堀川さんの研究)



「酵母の作り方」(小山さんの研究)



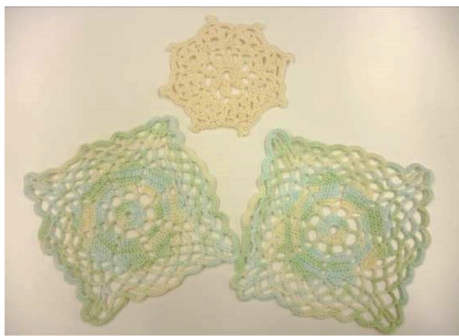
刺繍2年D組 増田理乃



ビーズのピアス2年E組 加藤梨花



マリン風バック2年H組 岩井麻衣子



レース編み2年H組 長谷川絢



浴衣3年D組 富樫珠里



テディベア3年F組 山田菜南香

生活に潤いを与えてくれるもの、役に立つものを手づくりしてみよう。